

[普及事項]

成果情報名：新規種雄牛「勝優久」の現場後代検定成績

研究機関名 畜産試験場 飼料・家畜研究部 肉牛担当
担当者 関屋万里生・渡部一弥・他2名

[要約]

新規種雄牛「勝優久(かつまさひさ)」の現場後代検定が終了した。検定成績の枝肉重量および脂肪交雑は歴代の種雄牛の中で最高で、検定調査牛の出荷月齢が早かったことから、勝優久の産子には短い肥育期間で優れた枝肉成績が期待できる。

[キーワード]

黒毛和種・種雄牛・現場後代検定・脂肪交雑・出荷月齢

[普及対象範囲]

県内肉用牛農家

[ねらい]

優れた遺伝的能力を持つ種雄牛を造成し利用することで県内の黒毛和種集団の遺伝的能力を改良し、県内肉用牛農家の経営安定と秋田牛のブランド力向上を図る。

[成果の内容及び特徴]

- 1 勝優久は、1代祖が勝忠平、2代祖が安福久、3代祖が金幸で、気高(栄光)系と但馬系が混ざった血統構成となっている(図)。
- 2 検定で肥育した勝優久の産子(検定調査牛)17頭の枝肉成績の平均値は、枝肉重量が519.9kg、ロース芯面積が65.2cm²、バラの厚さが8.4cm、皮下脂肪の厚さが3.0cm、歩留基準値が74.3、脂肪交雑(BMSNo.)が9.4で、枝肉重量および脂肪交雑は、これまで秋田県が造成し検定を実施した種雄牛の中で最高であった(表1)。
- 3 検定調査牛の出荷月齢の平均は、去勢が27.4ヵ月、雌が27.8ヵ月、全体では27.6ヵ月で、いずれも一般の同時期出荷牛の平均(28.7ヵ月、28.8ヵ月、28.8ヵ月)に比べ、約1ヵ月早かった(表2)。
- 4 検定調査牛の脂肪酸割合の平均は、去勢で一価不飽和脂肪酸(MUFA)が59.0%、オレイン酸(C18:1)が53.3%で、同時期出荷牛(59.0%、53.5%)と同等であり、雌でMUFAが61.2%、C18:1が55.6%で、同時期出荷牛(60.2%、54.9%)よりやや高かった(表2)。
- 5 勝優久の産子には短い肥育期間で優れた枝肉成績が期待できる。

[成果の活用上の留意点]

- 1 勝優久の現場後代検定は県内9戸の農場に検定調査牛を配置し実施した。肥育は各農場での飼養管理により行い、去勢は29ヵ月齢未満、雌は32ヵ月齢未満で出荷し、枝肉を調査した。
- 2 勝優久と交配する雌牛は、父牛が藤良系、但馬系(安福系以外)である雌牛を推奨する。
- 3 生時体重が大きい子牛が散見されるため、未經産や小柄な雌牛への交配には注意が必要。

[具体的なデータ等]

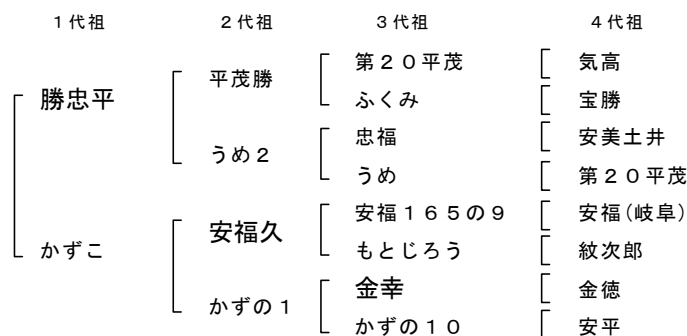


図 勝優久の血統構成

表 1 勝優久の現場検定調査牛の枝肉成績

調査牛 番号	性別	血統		枝肉重量 (kg)	コース芯 面積(cm ²)	バラ厚 (cm)	皮下脂肪厚 (cm)	歩留 基準値	脂肪交雑 (BMSNo.)	格付
		母父	母母父							
1	去勢	百合茂	茂重桜	520.5	67	7.3	1.8	74.9	12	A-5
2	去勢	金幸福	百合茂	541.5	71	8.0	1.6	75.8	10	A-5
3	去勢	安平照	茂重桜	510.0	70	8.1	2.7	75.1	7	A-4
4	去勢	美国桜	福華1	525.5	77	7.8	2.3	76.0	8	A-5
5	去勢	義平福	百合茂	644.0	69	9.4	2.8	74.1	10	A-5
6	去勢	安茂晴	義平福	525.5	65	8.8	2.4	75.0	11	A-5
7	去勢	美国桜	勝忠平	558.5	83	9.2	2.2	77.4	12	A-5
8	去勢	義平福	第1花園	508.5	45	9.5	3.7	72.0	7	A-4
9	去勢	安茂勝	北国7の8	523.0	48	8.3	2.8	72.1	9	A-5
10	去勢	百合茂	安福久	545.5	61	8.6	3.1	73.5	7	A-4
11	去勢	茂重安福(岐阜)	百合茂	559.5	68	8.0	3.5	73.5	9	A-5
12	雌	隆之国	若茂勝	485.0	55	8.6	3.9	72.8	10	A-5
13	雌	平茂晴	徳茂勝	533.5	65	7.9	4.0	72.9	7	A-4
14	雌	美国桜	勝忠平	516.0	80	9.3	2.6	77.2	9	A-5
15	雌	美国桜	平茂勝	466.0	66	7.8	3.8	74.0	11	A-5
16	雌	勝早桜5	安福久	394.5	56	7.8	3.5	73.8	12	A-5
17	雌	義平福	茂糸桜	480.5	63	7.7	3.5	73.6	8	A-5
			去勢11頭	542.0	65.8	8.5	2.6	74.5	9.3	A4・5率
		平均	雌6頭	479.3	64.2	8.2	3.6	74.1	9.5	
			全17頭	519.9	65.2	8.4	3.0	74.3	9.4	

表 2 勝優久の現場後代検定調査牛の出荷月齢および脂肪酸割合

	頭数 (頭)	出荷月齢 (ヵ月)	脂肪酸割合(%) ^{※1}	
			MUFA	C18:1
検定調査牛 ^{※2}	16	27.6±1.3	59.8±3.0	54.1±2.8
去勢	10	27.4±1.2	59.0±3.2	53.3±3.0
雌	6	27.8±1.4	61.2±2.2	55.6±1.9
同時期出荷牛 ^{※3}	1,187	28.8±1.7	59.2±3.2	53.7±2.9
去勢	961	28.7±1.6	59.0±3.2	53.5±2.9
雌	226	28.8±2.0	60.2±3.0	54.9±2.7

出荷月齢、脂肪酸割合の数値は、平均値±標準偏差

※1 脂肪酸割合：食肉脂質測定器による筋間脂肪部位の測定値から算出。

※2 17頭のうち、去勢1頭が測定不能だったため、16頭での数値となっている。

※3 検定調査牛の出荷期間(令和4年4月から10月まで)に、(株)秋田県食肉流通公社に出荷された秋田県産の黒毛和種1,187頭。

[その他]

研究課題名：産肉能力検定(現場後代検定)

研究期間：令和2年度～令和4年度

予算区分：配当(秋田牛生産総合対策事業(種雄牛造成事業)(畜産振興課))

掲載誌等：秋田県畜産試験場研究報告第37号(2023)